

大阪府保育士会だより



ほほえみ

平成 28 年 3 月 31 日
第 104 号
大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪府中央区中寺 1-1-54
TEL 06-6762-9001

〔27年9月保育士研修会〕

〔第1部〕

保育所などは、地域子育て支援センターとして地域の

〔27年9月保育士研修会・第1部〕

テーマ

「子どもの幸せ・親の幸せと保育・子育て支援」

講師

熊本学園大学社会福祉学部教授・
桜山保育園理事長
伊藤良高氏



〔第2部〕

子どもや親が幸せを感じられるためには、保育士が

〔第2部〕

テーマ

「桜山保育園の保育・子育て支援
～温かな風を吹かせる地域のオアシスを目指して～」

講師

桜山保育園園長
伊藤美佳子氏



27年度保育士研修会詳細

子育て家庭の相談に応じる
とともに、虐待予防を行うな
ど一定のソーシャルワーク
機能を発揮していくことが
求められます。

求められる ソーシャルワーク的な 発想と機能

保育ソーシャルワ
ークとは、子どもと
保護者の幸せがト
タルに実現するよう
に、そのフィールド
となっている保育実践、保護
者支援、子育て支援に、ソ
シャルワークの知識、技術、
技能を応用することです。

する相談、助言、情報提供、関
係機関や関係者との連携、権
利擁護、代弁役割、行政施策
への参加など、すべてできな
いかもしませんが、この中
められるものが違い、学問も
実践も発展していきます。専
門職と言われるためには、高
度な知識や技術を日々磨い
ておく必要があります。①保護者
に対して強い影響力をもつ
提案型の保育。家族・地域を
視野に入れた保育②保育者
の力量・保育技術を、ソシ
ヤルワーク的な発想で理解
し、さらに深まりのある実践
を目指す③事例研究の取り
組みが重要です。

(泉佐野市 I・J)

保育に関する
指導、子育てに関

平成27年度保育士研修会が9月14日、11月24日、2月23日、大阪国際交流センターなどで開催されました。テーマと講師、主な内容は次の通り。

温かい気持ちで肯定的に関
わる日常的な信頼関係づく
りに勝るものはありません。

保育者には、様々な保護
者や子どもたちを受
け入れることのでき
る大きな器が必要で

あり、保護者を追い詰めた
い支援を心掛けなければな
りません。保育園はつねに
保護者や子どもたちとつ
て実家のようにすべてを受
け入れてくれる温かい場所

者の生活やその背景を理解
しようとする、保護者の立
場に立って考えるというこ
とです。

子どもや保護者の 実家のような場所に

日本人が古くから大事に
してきた文化に「思いやり」
や「おもてなし」「心配り」
といったホスピタリティー
の精神を、一人ひとりの子
どもや保護者に向けてこそ、

として、子
どもや保護
者の生活やその背景を理解
しようとする、保護者の立
場に立って考えるというこ
とです。

また、保育士や保育園が
積み上げてきた保育の専門
性の土台の上に、保育ソ
シャルワークの原理や技術
を意識し、私たちがこれま
で実践してきたこと、これ
から実践していくことに自
信をもち、それを保育ソ
シャルワークと名付け、私
たちの手元から社会にアピ
ールしていくことが大切で
す。(泉佐野市 I・J)

〔27年11月保育士研修会〕

テーマ

「子どもの意欲を育てる保育
～保育を通して育てたい力～」

講師

社会福祉法人まどか保育園理事長
樋口正春氏



子どもの学びには、アク
ティブラーニング(自ら意欲
的に学ぶ)と、プロセスラー
ニング(なぜそれをしたかと
思ったのか)が重要です。「自
分がやりたい」「自分が知り
たい」という子どもの中の意
欲がスタートしないと何も
身に付きません。

玩具の種類は豊富に揃え
自分のしたいことを選択さ
せます。絵本やわらべ歌など
の文学的な言葉や詩は人間
の心を育てます。「心が動く」
体験がポイントです。保育者
として今の時期、子どもたち
に何を体験してほしいのか、
年間計画に落とし込んで取
り組みます。(2面に続く)

子どもたちの学びは、すべて遊びの中にあり、保育士はプロとして、遊びの学習の意味を考える必要があります。

0歳児は何をしたいのか
言えません。個々の欲求を満たすために、どう気持ちを受け止め、育てるのか、保育士

「遊びの学習の意味を考え「心が動く」体験を

から手を拭く、食べたいという気持ちが高まるのを待つ、手で掴める食べ物を用意

(豊中市 M・M)

【28年2月保育士研修会】

テーマ

「子どもの育ちを支える指導計画の作成 ～大切にしたい保育の振り返り～」



講師

大阪総合保育大学児童保育学部長・教授
大方美香氏

指導計画書は、職員間で同じイメージを捉えるための媒体ということを理解し、

入園年齢の違いや保育園での経験、体験の仕方が違うことに配慮する必要があります。その違いに優劣を付

が目的、見通しをもたなければなりません。例えば、食事の時には必ずごはんを見せ

する、「美味しいね」と言葉をかけて「など幸せな気持ち育てることもその一つ。子どもの学びは「この人

てから手を拭く、食べたいという気持ちが高まるのを待つ、手で掴める食べ物を用意

その関係性を築くことを常に心掛けましょう。

けず、プロとしての配慮や関わり方、環境構成が重要で、それが子どもへの理解に繋がっていきます。

次のクラスと交流し遊んでいる姿を見ることで、進級への期待が高まり、4月からスムーズに過ごすことができます。4月、5月は大事な時期と捉え、ほのぼのとふれ合える遊びを考える必要があります。

新年度の始まりは、まず人数確認を徹底すること。人まかせにせず、各人が責任をもって確認すること

最後に、現代はツイッターなどの影響で対話のできない子どもが増えています。自分の気持ちが言語化できるように「嬉しかったね」「悲しかったね」と大人が言葉にすることで自分の気持ちに気付くことができます。それらのことを導いていくのが私たちの役割です。

3、4月は繋がりのある指導計画を

安全が確保されます。遅れて来る子、途中で帰る子がいる中で、常に人数の予測ができる保育者でなければなりません。

指導計画を立てるに当たり、3月と4月は繋がりのある計画を立てましょう。子どもは環境の違いに適應することが難しい。3月に

安全が確保されます。遅れて来る子、途中で帰る子がいる中で、常に人数の予測ができる保育者でなければなりません。

指導計画を立てるに当たり、3月と4月は繋がりのある計画を立てましょう。子どもは環境の違いに適應することが難しい。3月に

(東大阪市 N・Y)

子育て支援シリーズ④6

認定こども園4カ園合同の親子参加型「遊びの広場」 地域交流深める出張保育も

守口市・寺内さくらこども園



守口市駅から徒歩3分の立地ながら、下町情緒を色濃く残す住宅地にある「寺内さくらこども園」。様々な子育て支援活動に取り組みされていますが、特に印象に残った2つの取り組みをご紹介します。

しましょう。

季節の行事に合わせ行われている出張保育がその一つ。地域の子育てサークルからの要望で、スマイルサポーター、保育教諭や男性保育士が公民館などに向き、運動会、ごっこを実施したり、クリスマス会にはサンタクロースになって登場したりと積極的に地域との交流を進められています。

もう一つは、地域の市民体育館を借り、近隣の認定こども園4カ園合同で、子育て支援を目的に「遊びの広場」を開催されています。

親子参加型の交流の場で、保育教諭やスマイルサポーター、育児相談員、看護師らと一緒に楽しく楽器遊びや運動遊び、絵本の読み聞かせなどを行うものです。何気ない日常の話や遊びを通してふれあいを深め、保護者が今、悩んでいること、知りた

える親子が参加され、次回の開催を楽しみにされているようすがうかがえました。

子育て支援活動を通して、今の若いお母さんたちの子育て事情もわかるようです。核家族が増え、ちょっとした育児相談などを聞いてもらえない人が周囲にいない、情報はスマホから、そんな風景が見えてきます。泣く子をあやすため「窓を開けるとうるさいと言われ、あぐくは虐待ではと通報されたことも」といった話も聞かれるそうです。

大谷典子園長は「これではわが子のために育児を頑張ろうと思っても、ストレスが溜まるばかりという状況ですね」と苦笑い。「これからはこども園や保育園が子育ての楽しさを共有できる関係の構築に取り組みなければなりません。同時に交流会などに参加できずに、悩みを抱えているお母さんたちをどのように支援していくかを考えながら、常に情報を発信し『本当の子育て支援』を目指したい」と力強く話されました。

の広場」は年間4回実施をされますが、毎回100名を超

(守口市 T・Y)

●「価値を伝える」ことが本質

前回、「リスクについて保護者に伝えておくべき」と書きました。「悪いことは先に言っておけ、ということなんだな」と思った方もいらっしゃると思います。必ずしもそうではありません。リスク・コミュニケーションの本質は、「活動の価値を伝えること」です。

たとえば、工場を建設する時、地域住民に伝えたいのは「この工場をここに立っている価値」です。でも、工場を建てることに伴うリスクは必ずあります。

増える交通量や騒音、臭い、事故などのリスクを何も考えずに「建てていいですよ」という住民など、今どきいらないでしょう。工場側としても「悪いことは何も起きません。いいことづくめです」などと説明すること自体が大きなリスクだとわかってはいるはず。リスク・コミュニケーションは、価値と、その価値に必ずついてくるリスクを伝えることなのです。保育も教育も同じです。

●子どもが育つ価値は、リスクと背中合わせ

子どもは、存在自体が価値です。そして、育っていくという価値の塊です。けれども、非常に未熟な状態で生まれ、育っていく以上、成長発達にはリスクだらけだからといって、「危ないから何もさせない」では、子どもは育ちません。自分で危険を察知することも、自分で自分の命を守ることもできるようにならず、そして、必要な時には危険を承知で乗り越えていくこともできないおとなになってしまいます。

保育園は、子どもの育ちを支え、促す場所です。それぞれに特徴があります。「私たちの園は、こんなことができる子どもに育てていきます。そのためには、これも、あれも、それもします」；、保護者に向かっています。

そして、たとえば「包丁を使えば、手も切ります。火を使えば、やけどをします。真剣に関わりあえば、真剣なとっくみあいのケンカにもなります。それは、私たちの活動に価値があるからこそです。保護者の皆さまは、その点をご理解ください」と伝えるのです。リスクは、価値と隣り合わせで必ず存在します(世の中に「いいこと」しかないことはありません。あると言うなら、疑ったほうがいいかもしれませぬ)。子どもが育つという価値をより大きくするために、より大きなリスクをとらなければならぬ。これは保育園だけでなく、保護者も社会も理解しなければいけない、とても大切な点です。

学びシリーズ35

保育におけるさまざまなリスク・マネジメント(第4回) 園の価値を積極的に伝えていく

保育の安全研究・教育センター代表 掛札逸美

けれども、リスクをゼロにすることは絶対にできません。園庭の真ん中を元気に走り回っていても、子どもは(おとなも)転びます。転び方によっては、骨折ぐらいます。跳び箱を軽々と跳べるようになった子どもでも失敗はしますし、失敗すれば骨や歯ぐらい折るでしょう。そして、転ぶ子ども、跳び箱から落ちる子どもを支えることなど、どんなおとなにもできません。

「リスク・ゼロ」幻想を植えるだけなく、できることを約束した結果、信頼を失う危険が高まるだけです。子どもを一日中、部屋にとじこめて見張っているというのでない限り、子どもは間違いないケガをするのです。とじこめて見張

「リスク・ゼロ」幻想を植えるだけなく、できることを約束した結果、信頼を失う危険が高まるだけです。子どもを一日中、部屋にとじこめて見張っているというのでない限り、子どもは間違いないケガをするのです。とじこめて見張

っていても、ケガはするでしょう。日本は戦後いつの頃からか、この当たり前のことを理解しなくなっています。でも、それでは子どもは育ちません。そして、保育も教育もつまらない仕事になってしまいます。今の時代、「保育者が育たない」と言われるのは当然と言えるかもしれませぬ。

「保育者が育たない」と言われるのは当然と言えるかもしれませぬ。

●園の活動をアピールし、生き残っていくために

少なくともケガに関してだけは、「私たちの園の保育・教育の価値はこうした活動にあります。そこにはこれだけの(ケガの)リスクがあります」とどどん保護者に伝えていくべきです。これは、自園のアピールすることそのものです。そして、保育園が淘汰の時代に入った時に「選ばれる園」になるための方法です。

包丁もナイフもどんどん使わせる、たき火もさせる、ケンカもOK。雑巾がけももちろんさせる(歯を折るからと雑巾がけをさせない園、学校が少なからずあり

包丁もナイフもどんどん使わせる、たき火もさせる、ケンカもOK。雑巾がけももちろんさせる(歯を折るからと雑巾がけをさせない園、学校が少なからずあり

ます)。子どもたちは失敗と痛みから学びます(小さい時に、小さい失敗と小さい痛みをたくさん経験しないまま、おとなになったら?)。そういった保育をすれば、保育者も「させる保育」の中で、どう深刻な危険を見極め、子どもの動きに働きかけるかを学んでいくと思

「させる保育」では、保育者が絶対に学べないことです。ただし、これはあくまでもケガの話です(ケガの中でも、唯一、高所からの転落だけは子どもが死亡する確率が低いので、個々の活動の詳細な検討が必要になります)。睡眠中の死亡や水死、誤嚥窒息、食物アレルギーなどに、子どもの学び(価値)はありません。こうした深刻事故は、ケガとはまったく違うのです。

こちらのリスクに関して

こちらはリスクに関して

こちらはリスクに関して

南海本線春木駅近くにあ
る「この花保育園」

は今年40周年を迎
える節目。4月か
らは120名定員
の認定こども園と
してスタートされ
ます。



一人ひとりを大
切に「優しく」「明
るさ」「そして「逞しさ」
にあふれた保育を創造す
る」が保育方針。設立当
初から町内会を
はじめ地域との
ふれあい、連携
を重視されてい
ます。

地域とともに
ふれあい大切に

町会館では、保
育士が未就学児の親子を
対象に、手遊びや体操、
絵本読み聞かせなどの親
子教室を年7回開催。子
育てに悩まれているお母
さんたちの話を傾け、
なごやかで、ホッとできる
雰囲気づくりの場になって
います。

のグラウンドで開かれたフ
ェスティバルで
は、同園の保育
士さんがウサギ
とトラの着ぐる
みでお出迎え。
バルーンアート
で犬やお花、刀
などを作ってプ
レゼントされま
した。町会の子
ども会に入って
いない園児も隔
てなく優先的に
チケットがもら
えるそうで、園
児も家族と一緒
に参加、目いっ
ぱい遊びを楽し
まれています。
そして9月の
岸和田たんじり
祭り。本引きの
前日の試験引き
の際に、年長児
と年中児がたんじり小屋に
招待され、たんじりの屋根
に乗せてもらったり、鳴り
物（太鼓・鐘）体験。みん
なで記念写真のあと、近く
の町会館までたんじりを曳
かせてもらいます。たんじ
り祭りが行われていない地

未就学児の親子教室、老人会と交流、
祭り体験—様々な年代層と交流

4月から認定こども園の「この花保育園」(岸和田市)

ゆめの子保育園
分園キッズビレッ
ジは八尾市の西武
百貨店屋上階にあ
る保育園です。百貨
店の屋上という特
異な場所でありな
がら、安全性や環境
面に工夫を
重ね、「家庭的で子
どもにやさしい保
育園」をモットー
にされており、自
宅から離れていて
も安心して過ごせる、いわ
ば「第二の家庭」になって
います。

「保育の工夫—現場を訪ねて—」

百貨店の屋上でのびのび、野菜も育てているよ！
「ゴーヤの日」プロジェクトに参加、
店のみなさんとも交流

ゆめの子保育園分園キッズビレッジ(八尾市)

広がっていますが、安全面
を考慮し、子どもたちが活
動する場所にはマットが敷
きつめられています。砂場
や大型遊具も設置、通常の
戸外と変わらぬのびのびと
遊び、走り回れるよう整備
されています。



ようです。
一種植えの段階では何の野
菜か分からないまま「大き
くなあれ」と水やりに精を
出し、どんどん成長する野
菜に「あっ！大根だ」と興
味津々。掛け声はいつの間
にか「おいしくなあれ」に

8日の「ゴーヤの日」にち
なみ、夏のCO2削減・節
電対策として、ゴーヤのつ
るを育てるグリーンカーテ
ンプロジェクトに参加され
ました。子どもたちからは
「これどうするの」と質問
攻めで興味津々。
11月のハロウィンでは
仮装して百貨店の中を周
り「トリックオアトリート」
と元気な声が響いたそうで
す。以来、百貨店の方と換
拶を交わしたり、手を握り
合い交流が広がりました。
地域(百貨店)の方とと
もに子どもたちの成長を見
守り、心身ともに自分らし
く育ててほしい、そんな
場所になるよう工夫されて
いるようすがうかがえまし
た。(八尾市 S・K)

域から通園している園児も
目を輝かせて張り切ります。
また、毎年2月には老人
会との交流が行われていま
す。お手玉、コマ回し、竹
とんぼ、紙鉄砲など昔遊び
を高齢者のみなさんに教え
てもらい、一緒に手遊びや
ジャンケン汽車などを楽し
みます。園児たちからは手

作りのクッキーをプレゼン
ト、老人会のみなさんから
は折り紙などの文房具をお
土産にいただきました。
様々な年代の方との交流
を通して、子どもたちは人
に対する尊敬の念やいたわ
りの気持ちを肌で感じてく
れるでしょう。貴重な体験
になっています。地域のみ

編集後記

おかげさまで27年度の保
育士会事業を無事に終える
ことができました。
この園も保育士不足です
が、この逆境に屈せず、研

れいている姿勢が実感されま
した。(岸和田市 N・N)
鑽を積みながら、これから
もゆるぎない保育を目指し
て共に頑張っ参りましょ
う。
28年度も皆さまのお力添
えをよろしくお願いいたし
ます。